

㊦ すごい！ いつの間に？

「では、お願いします」と案内された会議室、いつもは口の字型に並んでいる机が教室のように前向きに並び、全職員が着席していました。それは、平成8年3月22



日のことでした。M教頭先生に「先生には、38年間のお勤めご苦労さまでした。私たちも、先生のあしあとに学ばせていただきたいと思いますので、3月の適当な日に全職員へのお話をお願いします」と言われて1か月、今日が、その日なのです。

考えてみれば、何をどうしたということもなく、ただ、その日、その時を懸命に生きてきただけの私に、この学校に勤務した優秀な先輩に指導を受け、伝統にたたき上げられ、仲間とともに積極的に研究と修養を積んできた先生たちに話すことがあるのだろうか。私は、そんな自問自答を繰り返していました。しかし、私は、小・中学校と教育委員会事務局という3つの場に勤め、山村へき地、農村地帯、商工業の中心となっている地方都市、住宅開発が進む新しい都市とさまざまな環境にある学校に勤務しています。こうした体験の中には若い先生たちに参考にしてもらえることがあるかもしれない、そう考えて引き受けました。

私は、この日、昭和33年からの38年間に勤務した小学校や中学校、教育委員会でしてきたこと、心がけてきたこと、その楽しかった思い出や失敗談などを話しました。失敗の1つには「わ」の項に書いたも

のがあります。そして、私の教育に対する思いや先生たちへの期待を語りました。以下は、その後半の部分です。

教育には、伝承・改革・創造が必要です。人類が築き上げた文化や伝統を次代に引き継ぐ仕事が教育です。だから、教育の内容とともにその原理や方法の「伝承」も大切です。「改革」はより良いものにするために欠くことのできないものです。「創造」は人間ならではの取り組みです。「何を伝承し、どこを改革し、何を目的に創造するか」を見極め、最善の努力をすることが大切です。

私の好きな言葉に「進みつつある教師のみ、人を教える権利あり」があります。進んで学び、前進する子どもたちを導く教師は、自らが進んで学び前進する者でなければならないのです。私も、4月からは一教師として「教えるプロ・育てるプロ」としての力を一層高めていきたいと思っています。

なんだか、かっこいいことばかり並べましたが、実際は失敗だらけです。先輩にいただいた言葉「校長は恥かけ、汗かけ、文をかけ」も、恥をかいたのは常識がないためであり、つまらない失敗をしたからであり、かいた汗は冷や汗でした。

これ以外にも、たくさんの失敗があり、「こうすれば良かった」と思うことは数知れません。そんな私の姿は、すでに皆さんにはお見通しだったことでしょう。学年末の忙しい時期に無駄な時間をとらせたことを教職生活 38 年最後の失敗にしておきます。

生駒小学校での 4 年間は、楽しく充実した日々でした。教頭先生をはじめ皆さんのおかげです。明るい笑い声のこぼれる職場、互いに信じ合い力を合わせ、子どもたちのために働けたことは、ほんとうにうれしいことでした。「はたらく」というのは「はたをらくにさせる」ことだと聞いた覚えがありますが、それどころか、楽をさせてもらっ

た4年間を反省しつつ、いつまでも、この思い出を大切にします。ありがとうございました。

話のあと、退職の記念品として奈良一刀彫の『狛々』をいただきました。これには、「『狛々』は波間を舞い戯れる水の妖精が、孝行息子に不老長寿の酒を与えるという祝福の能で、この一刀彫は土井志清先生の作品です」という説明がついていました。そして、この1年間の記録アルバムやビデオテープに豪華な花束をいただきました。



「思い出のアルバム」と題された分厚いアルバムには、最後の年・平成7年度の私がいっぱい写っていました。入学式の写真には壇上から話している私と「お母さんはどこかな」と後ろを見ている1人の子もN君が写っていました。この写真に添えられていたのは1年後のN君のコメントでした。先生たちも1人1人、全員がコメントを書いてくれていました。巻末には、M教頭先生の書「吾道一



以貫之」がありました。

修学旅行のときの写真には、このアルバムづくりの中心になってくれたO先生の「阪神淡路大震災の影響で静岡に変更になった修学旅行。富士山の5合目で出会った雪にびっくり。ワープロ、パソコン大好き
の校長先生。近いうちにパソコン通信でアクセスできるようになると
思いますので、引き続きご指導よろしく申し上げます」というコメント
がありました。

卒業式の写真のページには、M先生の「厳粛な中にも温かさが感じられるすばらしい卒業式でした。21世紀に生きる子どもたちにとって、校長先生のお話はいつまでも心に残るものであったと思います。ありがとうございました。校長先生の教育に対する情熱と真摯な態度にはいつも感銘を受けていました。尊敬できる校長先生のもとで仕事をさせていただいたことを幸せに思います。いつまでも私たちを見守って下さいますようお願いいたします。これからもますますお元気でご活躍されることをお祈りしております」がありました。

こんなすばらしいプレゼント、「すごっ！ いつの間にこんなものを作ってくれたのだろう」と思いました。

もう1つのプレゼントは、紅白のリボンに束ねられたビデオテープ4巻でした。これは、6年生の子どもたちへの最後の授業「砂糖と食塩の見分け方を考えよう」の記録でした。子どもたちの発想のままに展開した6年生4クラス、4通りの授業の記録が詰まっていました。

これらは、私にとって最高の宝物です。「こんなすばらしいプレゼントをもらったよ」と誰彼となく自慢したい、そんな気がするプレゼントでした。そして、目がうるうるしてきたこの日でした。